

白鷹町認知症高齢者
見守りネットワーク

**見守り
支え合い**

お年寄りが地域で安心・安全に暮らせるよう応援します

介護ワンポイントアドバイス
地域包括支援センターTEL86-0112

**認知症の家族と
笑顔で暮らす
②症状や原因にあわせた
対応・福祉用具の使用**

認知症が進行すると、「自宅に居るのに『家に帰る』と出かけようとする」「茶の間のゴミ箱をトイレと間違えて用を足してしまう」など、家族や周囲の人にとっては困ってしまう行動をとってしまうこともあります。

止めようとしても、認知症のかたに理解してもらえずやめてもらえないと、介護者は困り、怒り、疲れてしまい、介護への意欲も薄れてしまいかねません。

でも、これらの介護者を困らせる行動も、認知症のかたにとっては理由があることがほとんどなのです。

認知症の物忘れの特徴に、新しいことが覚えられない「記憶力の低下」や過去の記憶の中で生きる「記憶の逆行性喪失」などがあります。認知症のかたの記憶は、最近のことからさかのぼって忘れてしまうので、子どもが建てた築5年の家よりも、自分が若い頃過ごした家を「自宅」だと思いついて入ることが考えられます。また、トイレでない場所で排泄してしまうのは、トイレの場所がわからなくなっていたり、また尿意が鈍くなっていたりしてトイレまで間に合わず、など複数の理由が考えられます。

◆介護保険サービスの『福祉用具』を利用しましょう

○認知症徘徊感知器：一人で歩いて転んだらどうしよう、知らないうちに外に出て行ったりはしないだろうか、と心配で家族が夜も眠れない、と

いうような場合には、夜間は玄関を施錠したり、介護保険サービスを利用して『徘徊感知器』をレンタルしてはいかがでしょうか。認知症のかたがベッドから降りたり玄関まで行ったりするなど、特定の場所を通るとアラームなどで教えてくれる福祉用具です。

認知症のかたが動きたがっているタイミングがわかることで、トイレの介助をしたり一緒に散歩をしたりして、気持ちを落ち着かせることができるといいかもしれません。また、介護者はアラームがなるまでは安心だと思えることで、ゆっくり休憩して心身を休めることができるようになります。

◆衣類に本人の名前や連絡先をつけておきましょう

徘徊する認知症のかたには、本人が気づきにくい上着の脇やズボンのお尻部分などに、連絡先を記入しておくのが有効です。そんなに大きなものでなくとも、本人が困っているときに気づいてくれた人がわかるように、読める大

きさの字で書いておきましょう。いつも持ち歩くバッグなどがあるかたは、そちらにも記載しておけば忘れな忘れたときにも安心です。

◆周囲に話し、協力してもらいましょ

家族が知らないうちに外に出してしまう認知症のかたがいる場合には、そのことを近所の人に伝えておいて、見かけたら教えてもらうようにしておけば、遠くへ行く前に誰かが気づくことが増え、認知症のかたの安全が守られやすくなります。

町認知症高齢者見守りネットワーク協議会の『見守り・支え合い』ステッカーを掲示しているところでは、認知症のかたの見守りに協力をいただけて、地域で広く見守りしていきましょ。

■問い合わせ 地域包括支援センター（☎86-0112）

認知症の人と家族の会

認知症のことでお悩みのかた、誰かに話を聞いてほしいかた、本人・家族・近所のかたなどどなたでもご参加ください。

▼いつ 6月22日（水）
午後1時30分
▼どこで 健康福祉センター
■申込・問い合わせ
地域包括支援センター
（☎86-0112）

